

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100282		
法人名	有限会社 ナイスケア		
事業所名	グループホーム ひまわりの家 1階		
所在地	千歳市北斗4丁目14-4		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	平成24年6月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様全員に少なくとも1日1回は笑って過ごしていただけるよう心がけて支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171100282&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 24 年 1 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの優れている点は、第一に利用者が好きなことが言える、また、それらを聞き入れる代表者を始めとする職員の懐の深さが視えます。「今日は天気も良いし外でパーベキューでもしようか」などの発案が、すぐに実行に移されるなど、臨機応変の身軽さが特筆されます。第二にケアプランの作成にあつて、たくさんの目標を立てるより、利用者の今の暮らしに役立つシンプルさに好感がもたれます。また、その根幹には常にホームの運営理念の「普通の生活をしよう」との考えが、しっかりと根づいていることが視えます。第三に市内の同業者と幾度も会合を持ちながら「絆の会」を立ち上げ、総勢300人もの大運動会を行うなど、オピニオンリーダーを担いながら、地域との結び付きを大切にしています。第四ですが夜間入浴の試行に見られるように職員のアイデアが実際に試行してみるなど、代表者を中心とした職員全ての風通しの良い環境があり、職員の定着の要因となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検しううえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況			実施状況		
I. 理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念に基づきその人らしく生活できるよう話し合い、実践につなげている。			ホームの基本理念やケア理念には地域密着の文言はないものの、職員全員が、地域の中に溶け込んで、利用者の当たり前の暮らしを追求する姿勢が満ちています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加して楽しんだり、ホームでの行事に呼びかけて参加していただいたりと地域交流に努めている。			町内会などの深い理解にも支えられ行事への参加、また、ホーム行事への参加など、交流が盛んに行われています。老人クラブのメンバーにも一部の利用者が加わり、相互交流もあるなど、地域との付き合いは深まっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方と認知症について話す機会や共に過ごす時間を設け、理解や支援方法を少しずつ浸透させている。			/		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の生活の様子、活動状況を報告し話し合いを行っている。			定期的に開催されている会議では、ホームの現況や行事報告、また、話し合いなどが行われており、サービスの向上に反映されています。これからは会議のメンバーの拡充を図り、報告事項をさらに掘り下げ、家族への理解を得るよう取り組みが検討されています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	千歳市の地域包括ケア会議に参加したり、ヘルパー実習生の受け入れなどを行っている。			代表者は、市内のグループホームと小規模多機能事業所で作る「絆の会」の活動の理解を得るため、市との積極的な話し合いが行われており、サービスの質向上に向けた協力体制の構築に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていない。			身体拘束のないケアは、ホームにとって理念の実践でもあり、職員全員が強い認識のもと、日々のサービスに努めています。夜間以外は玄関も開放されており、職員の優しい気くばりを垣間見ることが出来ます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアについて話し合い、虐待防止は浸透している。			/		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について職員全員は把握していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時家族に説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中に苦情相談窓口の案内を載せている。ホームの入り口には意見箱の設置、家族来訪時には声をかけ相談や要望がある時は聞いてケアに反映させている。	職員と利用者の仲睦まじい会話の中から、また、家族の訪問時、電話などの会話の中から、意見や要望の収集に努めています。毎月発行される「ひまわり新聞」など、充実した紙面による情報提供を通し、家族の意見・要望をより多く得たいとする姿勢が窺えます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で意見交換されている。スタッフの意見を現場に反映させている。	代表者は、職員と共にケアの最前線におり、職員と同じ目線での会話が日常的に行われるなど、風通しの良い環境作りの中から職員の意見などをホーム運営に反映させています。職員の会議からは、夜間の入浴の可能性を探求する試行の提案があり、実践してみるなど、固定観念に縛られない発想がホーム運営に活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員を面談し、話し合う機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修に参加している。個々にレベルアップできるよう取り組む機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームの会で勉強会や活動を行い、相互の意見交換等されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との関わりの中で、ニーズ等を聞き安心できる生活を送れるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族のニーズを聞き、受け止めるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の状況に応じ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、時に入居者様に頼る場面を作り支え合いながら生活できるような環境を作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に現状報告や情報交換をしている。協力も得られ良い関係が出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に応じサークル活動に参加したり、家族の付き添いのもと馴染みの美容室などに出かけている。	利用者の暮らしを潤いで支えるため、家族の協力を得ながら、馴染みの関係継続に努めています。ゲートボールのサークルへの参加や、馴染みとなった日本舞踊の先生をお招きしての舞踊など、様々な支援が行われています。家族と共に墓参りや、美容院への送迎なども暮らしの一部として継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で自然に役割ができ、協力し合いながら行えるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に遊びに来ていただけるよう声かけしたり、医療機関や介護保険のことなどについて相談にのっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の言動で得たことを職員全員で把握し希望に応じられるよう支援している。	利用者の思いや意向の把握には、職員の優しい会話の豊富さがひとときわ眼につきます。話しかける言葉に利用者の生活歴や家族からの情報が飛び交い、思いや意向の把握に職員のスキルの高さが伺えます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を把握し支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートで現状把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を確認し、職員で話し合いケアプランを作成している。	介護計画の作成に当たっては、家族の意見などを取り入れながら、日々のモニタリングが反映された計画作りが行われています。これらの計画の底流には「普通の生活、当たり前暮らし」という運営理念への実践目標が鮮明となっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員でアセスメントシート・業務日誌を記入し情報を得ている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに即話し合い、対応していくようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や町内ゲートボールサークルの参加等出来る限り支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医院の医師による定期的な往診の実施。	かかりつけ医への受診は、家族と協調を図りながら支援しています。ホームの提携医院からは、2週間に1度の定期健診が行われ体調管理のほか、細やかな相談にも対応して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、週1回の健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけ面会し現状の把握に努め、医師・看護師・相談員・家族とこまめに連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期に主治医・家族へ相談し、今後について話し合いを行っている。	重度化などに向けた指針は、運営規程や重要事項説明書にも記載され、家族への説明が行われています。重度化への移行時には、家族、医師と話し合いを持ちながら対応しています。職員は、看取りの体験(1例)を今後の対応に活かすよう切磋琢磨しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を行い、備えられるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも協力していただき、一緒に避難訓練を実施している。	消防署の協力を得た避難訓練に加え、自主的な訓練を重ねています。火災に止まらず地震や火山噴火などを視野に入れながら、地域住民の協力の拡大や備蓄への対応など、災害に対する対策の拡充を検討されており、取り組みが期待されます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を尊重し、立場を考え対応している。	職員は、利用者に接する際に人格の尊重とプライバシー確保を心がけています。言葉かけに注意しながら、利用者の立場に立ったケアの実践に努めています。入浴やトイレへの誘導には特に気くばりが行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の能力に合わせ働きかけを行い、選択肢を個々に合わせ提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせ対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やイベント事に合わせ支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をし、個々に合わせた支援をしている。	利用者の好みや代表者と職員の想いが、ふんだんに込められた家庭の味が、手作りで提供されています。食事は、利用者、職員と一緒にの食卓で、賑やかな会話が飛び交います。下拵えや後片付けなど可能な限り参加して頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アセスメントシートに記入し、職員全員で情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様に合わせた下着を使い、アセスメントシートへの記入を元に声かけ誘導し支援している。	利用者の排泄パターンを熟知しながら、それとなく誘導し、トイレでの自立排泄を支援しています。リハビリパンツやパットなどの使用により、できるだけオムツに頼らない暮らしの支援が継続されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物・乳製品・水分の提供と適度な運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り入居者様の希望に合わせた入浴ができるようにしている。	入浴は週3回を目標としていますが、利用者の体調や希望を大切に対応しています。夜間の入浴の可否について試行を行うなど、固定観念にとらわれない楽しい入浴への配慮が覗えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを整え、入眠しやすい環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が処方箋ファイルで服薬内容を閲覧できるようにし、服薬は職員介助にて行われている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味に合ったレクや外出を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状況に合わせて、気分転換も含め行われている。	利用者の希望を大切にしながら、散歩や買い物など、ホームの外に出る暮らしを支援しています。朝のラジオ体操、法人が経営するデイサービスでの入浴など、閉じこもりの防止に配慮しています。花見や外食などの郊外へのドライブも楽しみの一つとなっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に財布を持っていただき、買い物を楽めるよう職員付き添いで行われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能力に応じできるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室やトイレには表札やマークがあり、わかりやすい対応がされている。大きい音や職員の動き、室温や湿度も注意し、過ごしやすいよう配慮している。	暖かな日差しが満ちた居間では、利用者が、それぞれ寛ぎの時間を過ごしています。台所も二方面の入り口があるなど、使いでの良い配慮があります。車椅子に対応したトイレや、幅広い廊下の中に家庭的な雰囲気が漂います。温度・湿度計も利用者の座る高さに考慮した設置も見られます。代表者の育てたゼラニウムが置かれ、可憐な花が心地良く香ります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置を考慮し、適宜場所が確保できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具が持ち込まれており、必要に応じ希望の家具を購入している。	使い慣れた家具や物品を持ち込み、それぞれの居室が、居心地の良い温かで安心の居場所となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや床等の安全対策は、建物設計時に検討し完備されている。		